日本哲学の国際性への旅

Gonçalves, Felipe Ferrari　　哲学専門　博士後期課程 2 年

2014年に, 日本哲学や比較思想を研究している学者の集合によって, European Network of Japanese Philosophy（ENOJP）が生まれた。それは, European の学会であるが, 欧州のみではなく, 日本, アジア, 米州などの諸国の学者が集まる学会であり, ENOJP の目的は西洋言語を通じて日本哲学を扱うことである。それ故に, 国際的な学会でありながらも, European Network という名前を有しているのである。ブラジル, スペイン, フランス, ドイツ, ベルギーや日本の諸大学の教授や学生の努力の甲斐あり, 2015年12月 3 日から 5 日まで, バルセロナのポンペウ・ファブラ大学にて, スペインの経済・競争力省と在バルセロナ日本国総領事館の後援によって ENOJP の初の大会が行われた。大会は100人以上の参加者を集めることができたので, 大成功を収めたと言える。更には, 17件のパネルディスカッションが行われ, 20ヶ国51人の発表者が日本哲学の重要な問題について議論した。その中でも, 東洋哲学の有名な専門家であるヘルシンキ大学の Rein Raud, フランス極東学院の Frédéric Girard とルーヴァン・カトリック大学の Bernard Stevens は 3 件のワークショップにおいて, 日本の文化や思想と西洋哲学との関係について発表した。ENOJP の委員会において, 2016年度の大会は12月上旬にブリュッセルで行われることと, 今大会の発表内容がエッセイとして南山宗教文化研究所によって出版されている *Frontiers of Japanese Philosophy* に掲載されることが決定された。

ENOJP の大会が終了した後, ドイツのヒルデスハイム大学の見学を行い, 東洋哲学と比較思想の専門家である Rolf Elberfeld の講義とセミナーに参加することができた。Histories of Philosophies という講義において, Elberfeld 教授はギリシャのヘレニズム時代における東洋文化と仏教の影響について発表し, Philosophie und die Wild というセミナーにおいて, 先生と学生は欧州人の観点から様々な国（特に南米の諸国）の文化や伝統を議論していた。授業中, ドイツの学生はたびたび自分の意見を述べ, 先生と色々なディスカッションを行っていたので, ヒルデスハイム大学を見学しながら, ドイツ人と日本人の学生の態度の違いを強く感じた。

ENOJP の初の大会で発表し, ドイツの大学を見学したことは, 様々な文化的背景をもつ学者にとっての「日本哲学」を理解できたので, 日本国内で日本哲学を研究している大学院生として, その経験は日本哲学の国際性への旅であったと言えるだろう。

各学生の発表状況（発表者名・学会年月日・大会名・開催場所・発表タイトル）は以下のとおりである（発表年月順）：

・秦　勤　2015年 8 月 5 – 7 日
　Inter-Asia Cultural Studies Society 国際学会　アイルランガ大学, スラバヤ・インドネシア
　「Local and Transnational Queer Dynamics: A study of Aomori International LGBT Film Festival」

・岡　英里奈　2015年11月14–15日
　国際シンポジウム「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」・「次世代フォーラム」 輔仁大学, 新北・台湾
　「旅する作家, 旅する言葉――脱『文明批評』的藤村論のために」

・藤田　祐史　2015年11月14–15日
　国際シンポジウム「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」・「次世代フォーラム」 輔仁大学, 新北・台湾
　「芭蕉と Basho ――リービ英雄『千々にくだけて』論」

・Gonçalves, Felipe Ferrari　2015年12月 3 – 5 日
　The First Annual Conference for the European Network of Japanese Philosophy　Pompeu Fabra 大学, バルセロナ・スペイン
　「From Khora to Basho: The Origins of Nishida’s Theory of Place」